

令和7年度 江戸川区立鹿骨松本小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子					目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成を果たす学校 ○「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」 ○安心できる学校づくりに邁進し、一人一人に応じた指導ができる教師		
前年度までの本校の現状	成果	○基礎・基本的な定着を目指した指導を、年間を通して実施したこと、学習に前向きに取り組む児童が増えた。 ○様々な取組を通して、児童が落ち着いて生活できる環境を整えることができた。					課題	○児童の学習の基礎・基本の更なる定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立などが早急の課題である。家庭との連携も含めた学力の向上について考えていきたい。 ○開校記念式典に向け、地域との連携をさらに深めていきたい。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A~D)		「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己（学校）評価 (A~D)		「年度末」 学校関係者評価 (A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・週3回以上の全校一斉朝学習の実施及び東京ベーシックドリル診断結果に基づいた個人カルテの作成	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「学力を高めようとしている」と回答	70%	90%	B	○全国学力・学習状況調査において、CD層の割合が昨年度並みであった。さらに、割合を下げるべく、結果を分析し、手立てを講じていく。	B	○分析と結果の両輪が必要である。朝学習及び個人カルテの活用方法を確立していくことが肝要である。	A	○朝学者・個人カルテに加え、年度途中よりランスタを実施したこと、「学力を高めようとしている」児童が85%であった。	B	○学力向上に向けて、児童本人の興味ややる気を引き出せたことは大変素晴らしいことである。	○学力向上に向けた良い取組は、次年度も継続し、更なる向上を図っていく。
		・年3回の「江戸川っ子study week」による家庭学習及びミライシード活用の推進	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「すすんで学習に取り組む」と回答	65%	80%	B	○「江戸川っ子study week」を活用し、家庭と連携して、学習の定着を図ることができた。	B	○家庭学習の定着には家庭の協力が必要。保護者への啓発をさらに考えていくことが大切である。	B	○家庭と連携して取り組んだことで、「毎日の宿題にすすんで取り組む」児童が80%であった。	B	○勉強に対する意識を高めるためにも保護者の我が子に対する声掛けも大事だと思う。	○家庭との連携を更に図れるよう、「江戸川っ子study week」の実施方法を見直していく。
	○読書科の更なる充実	・図読書の設定及び学校図書館の環境整備	・週3回以上の図読書の実施及び夏休み期間中の集中環境整備	70%	80%	B	○夏休み期間中に学校図書館の電算化を実施した。 ○1学期に中央図書館と連携し、調べる学習コンクールに向けた出前授業を実施した。	B	○図書に興味をもつよう図書ピンゴ、または図読書や読み聞かせの取組を充実させることで本への興味や関心がさらに深まると思う。	B	○夏休みに図書館の電算化を図ったことで、児童が好むジャンルが一目で分かるようになり、図書配列に生かすことができた。	B	○探究心や心を豊かにする読書の取組は欠かせない。普段できない環境整備を夏休み中に実施したことは素晴らしい。	○図書館電算化で得られるデータを環境整備に活用し、更に読書好き・調べ好きな児童を育成していく。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・「江戸川っ子縄跳びチャレンジ」の推進	・各学期2週間の実施	65%	90%	B	○1学期に2週間、全校が外に出て「短縄跳び」に取り組んだ。2・3学期も同様の取組を行い、体力の向上を図っていく。	B	○縄跳びは体づくりにはよい運動なので、週に1回、全校で音楽に合わせて跳ぶ取組を行ってもよい。	A	○2学期にも2週間、「短縄跳び」を実施し、今回は「学級全員での長縄跳び」「ランニング」にも取り組み、体力の向上を図った。期間中は、元気に活動する児童の様子が見られた。	B	○心肺能力を高め体力の向上を図る取組はとても良い。外遊びができなくなっているので、とても良い取組である。	○江戸川区の取組である「短縄跳び」と本校独自の取組である「持久走」を今後も継続し、更に体力を高められるよう考えていく。
		・運動量が確保された体育授業の実施	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「体育や外遊びなど、体を動かすこと好き」と回答	65%	80%	B	○学習カードや1単位時間の授業の工夫を行い、児童の運動時間確保に努めた。	B	○体力向上のためにも日頃から体を動かすことの大さを知り、いろいろな運動に挑戦してほしい。	B	○体育における運動時間の確保及び外遊びを励行したこと、「体育や外遊びが好き」な児童が86%であった。	B	○体力向上のためにも縄跳びやマラソンなど体を動かす習慣を続けて、運動能力を高めてほしい。	○体育の授業改善を進め、運動量が確保された体育授業を継続することで、運動好きな児童を更に育成していく。
		・年間を通して、体育の時間で主運動につながる補助運動の実施	・体力調査の項目において全項目の60%以上で区平均を上回る	70%	80%	B	○体力調査において、67%の項目で全国及び東京都の平均を上回ることができた。今後も補助運動を継続し、更なる体力向上を目指していく。	B	○国や都の平均を上回る成果が得られたことは、短縄や持久走等の取組をしているからだと思う。今後も体を動かす機会の担保をお願いしたい。	B	○計画的な体力アップの取組を設定したこと、児童の体力向上が図れた。体育の時間で主運動につながる補助運動の実施率は、60%程度であった。	B	○指導者が意図的に計画を立て取り組むことが大切である。短縄や持久走は、ぜひ続けてほしい。	○年間を通して、体育の時間で5分間の補助運動を確実にとることで、更なる体力向上を図っていく。
実現共生に社会推進のため	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・SCやSSW、巡回指導、通級指導、特別支援教室専門員との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員との打ち合わせを実施	85%	90%	A	○SCやSSWと常に連携を取ることで、支援の必要な児童や家庭の背景が分かり、その後の指導につなげることができた。 ○特別支援担当教員と週1回以上打合せを行うことで、同じ方針で指導にあたれた。	A	○校内掲示や案内表示など授業だけではない環境整備ができると良い。 ○情報共有は重要である。	A	○SCやSSW、特別支援担当教員と常に連携を取ることで、児童や保護者の様子がよく分かる。配慮を要する児童に対し、今後も必要な支援を行っていく。	A	○SCやSSW、特別支援担当教員と連携を取り、困り感のある児童に寄り添った指導をしていく。	○SCやSSW、特別支援担当教員と連携を取り、困り感のある児童に寄り添った指導をしていく。
	○エンカレッジルームの活用促進	・不登校児童や別室指導の児童を含む全児童の居場所づくり	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「学校に居場所がある」と回答	80%	80%	B	○不登校児童や別室指導の児童全てがいすれかの関係機関とつなげることができた。今後も関係を切らすことなく、全児童の居場所を作っていく。	B	○居場所づくりは大切な視点である。 ○不登校児童の対応は難しいが、いつも心がつながっている取組はぜひ続けてほしい。	B	○不登校児童や別室指導の児童を含む全児童の居場所づくりを進めたことで、「学校に居場所がある」児童が84%であった。	B	○居場所づくりのため、学校だけでなく、多様なところで学ぶ環境が大切である。	○今後も全児童にとって学校が「自分らしくいられる場所」であり続けられるよう、様々な環境を整えていく。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	70%	90%	B	○2学期より副籍（直接）交流を行っていく。特別支援学校担当教員と連携を密にし、実りある交流を実施していきたい。	B	○交流を通して、互いを思いやる心や助け合う気持ちを学んでほしい。 ○1学期から実施できなかった理由を知りたい。どの学校も実施が遅い。	A	○2学期より、直接交流を開始し、2学期に2回実施した。 3学期も2回計画し、児童に多様性を学ばせていいく。	B	○これから児童の未来を考えると、交流をすることはとても良い取組である。	○今後も年間指導計画に基づいた交流及び共同学習を実施していく。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・異学年交流や地域資源を生かした活動などの充実	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「学校が楽しい」と回答	70%	90%	B	○なかよし会活動を活用した異学年交流を月に2回以上は実施できている。今後は学校応援団等と連携し、地域資源を生かした、特色ある教育活動の充実を図っていく。	B	○今後、学校応援団等との連携を図っていってもらいたい。	A	○年間を通して「豊かな心の育成」を意識した教育活動を行つたことで「学校が楽しい」児童が94%だった。	A	○地域の特色ある活動を生かし、これからもPTAや学校応援団と連携をとりながら教育活動を進めてほしい。	○今後も「豊かな心の育成」を意識した体験的な学習活動を行うことで、全ての児童にとって、楽しい学校であり続ける。
	○L-Gateの活用	・問題行動の未然防止、早期発見・早期対応	・全学級、毎朝のL-Gate及び教職員間での情報共有を実施し、いじめ解消率100%	75%	80%	B	○6月より、L-Gateを活用し、毎朝児童の「心の健康観察」が実施できている。情報のアンテナを高く保ち、問題行動の芽を確実に摘み取っていきたい。	B	○統合により全ての児童が環境変化にさらされたと思うが、特段問題がないように感じ、安堵している。	B	○全学級、毎朝L-Gateを実施し、心と体の健康状態を確認することができた。また、長期休業終了3日前からも実施し、児童が不安なく登校できるようにした。	B	○L-Gateについて今後も継続し、問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努めてほしい。	○L-Gateをさらに活用し、問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努めに生かしていく。
	○教育相談の強化	・SC、SSW他関係機関との連携強化	・不登校児童とのSC、SSW他関係機関との連携率100%	85%	90%	A	○不登校児童と関係機関との連携は100%である。担当者と密に情報を共有し、不登校児童が少しでも、確実に次のステップへ歩めるよう支援していく。	A	○不登校児童にはじっくり関わり、時間をかけて話を聞き、その子にあった対応が必要。 ○学習の保障をお願いしたい。	A	○SC、SSWをはじめ、関係機関と連携し対応にあたったことで、当該児童や保護者に組織により良い提案ができた。（連携率100%）	A	○連携率100%は素晴らしい。 ○学習の保障を今後もしっかりと行ってほしい。	○今後もSC、SSW他関係機関と連携を深め、どの児童にとっても居心地の良い学校を作っていく。

学校開拓会か社会実践にかかわる会員の実現	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの毎日の更新	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信について、肯定的に回答する割合が90%以上	65%	80%	C	○週間に2・3回程度、学校ホームページの更新ができる。今後は、学年ごとの取組も積極的に発信し、充実を図っていきたい。	B	○学校や教育活動の内容が、ホームページの写真から伝わってくる。○ホームページ更新より、授業優先で良い。	B	○ホームページをほぼ毎日更新し、積極的に情報を発信したこと、「ホームページ等で伝えている」と回答した保護者が91%であった。	B	○忙しい中、ホームページ更新するのは大変だと思うが、更新することで学校やその他の内容が早く伝わり、良いことである。	○地域や保護者の声も聞きながら、更により良いものにしていく。学年の取組も積極的に発信していく。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回の学校関係者評価の開催	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	75%	80%	B	○学校評議員に取組目標と取組内容を年度当初に示すことができた。江戸川区の教育施策を受け、重点項目も設定することができた。	B	○統合してからの子ども達の様子を観察する良い機会である。	B	○事前に評価内容を示した上で年3回の学校関係者評価を実施したことで、学校の取組や課題を重点的に評価していただけた。	B	○学校評議員会の他、開校式典や入学式、他の行事に参加させていただいているが、先生方の輝いた自や躍動する姿には心を打たれる。	○今後もより学校評議員の方との連携を深め、より良い学校づくりに取り組んでいく。
	○学校公開の実施・充実	・教育活動の積極的な公開	・各学期1回以上の公開日の設定及び参観者アンケートの実施	75%	90%	B	○各学期1回以上の公開日を設定することができた。また、オンラインアンケートを実施し、出された意見については、全教職員で共有することができた。	B	○子ども達の様子を見ることができる学校公開は、とても貴重である。	A	○各学期1回以上の学校公開を行い、オンラインアンケートも実施した。児童の良さや成長を喜ぶ内容について、全校朝会等で児童に紹介した。	B	○学校公開は、児童にとっても保護者にとっても、学校の教育活動が分かるとても良い機会である。	○オンラインアンケートで出された意見を基に、次年度の学校公開に向け、より良く改善していく。